

地域生活支援の充実に関する課題の整理・検討について（親亡き後）

下記は、前回部会の開催にあたり部会員から提出された「親亡き後」に関する課題及び令和6年度に実施した事業所向けアンケートで挙げられた意見について、整理・分類したものであり、この結果からみえる課題について協議を行いたい。

（主な意見・課題）

1 将来に向けた準備・意思決定支援

- 親亡き後を見据えた準備が進まない。
 - 親が元気なうちは具体的な行動につながりにくい。
 - 親亡き後を考える機会や、将来的にではなく、今行動に移す動機付けが必要である。
 - 本人・家族・支援者で課題認識に差がある。
 - 本人や家族の意向確認、将来の役割分担の整理が必要である。
 - 親と本人の間に入り支援できる関係者が必要である。
-

2 住まい・地域生活への移行

- グループホーム等の情報不足や空き不足への不安がある。
 - 一人暮らしや地域生活への移行に対する本人・家族の不安が大きい。
 - 自立に向けた体験や準備の機会が不足している。
 - 現状維持を望み、将来の生活について検討が進みにくい。
 - 親なきあとの生活費や住まいの心配がある。（R6 アンケート）
 - 今は大丈夫だが、親が亡くなってしまったら生活がなりたつのか心配。（R6 アンケート）
-

3 相談支援・情報提供

- 将来について相談できる場が十分に知られていない。
 - 成年後見制度や障害福祉サービスに関する情報が不足している。
 - 必要な支援につながらないケースがある。
 - 本人・家族が希望した際に迅速に対応できる支援体制が求められる。
-

4 権利擁護・医療同意

- 成年後見制度の利用が進みにくい。
 - 医療同意や入院時の手続きなど、親亡き後の意思決定支援に課題がある。
 - 身元保証や入所・入居時の支援体制が必要である。
 - 親が高齢になり、今後のことを兄弟に任せるべきか、後見人を付けるべきか悩んでいる。（R6 アンケート）
-

5 緊急時・災害時の支援体制

- 緊急時や災害時の支援体制に不安がある。

- 個別避難計画の作成や見守り体制の整備が必要である。
 - 防犯対策や緊急連絡体制の強化が求められる。
-

6 支援体制・人材確保

- 相談支援や地域支援を担う人材が不足している。
- 支援者の専門性向上や質の高い支援が必要である。
- アウトリーチ支援や伴走型支援の充実が求められる。